

平成28年度活動報告書(1/3)

学部・委員会名	地域環境科学部
学部長・委員長等氏名	学部長 矢口行雄
担当所管	森林総合科学科
テーマ	広報活動の充実

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

森林の利用を人と自然の共生系として捉え、これまでの森林・林業・林産業のあり方に加えて、森林の生物多様性の保全と持続的利用のバランスを考えた地域づくりに対応できる専門家教育の充実を図る。すなわち、森林資源の持続的な生産や資源利用としての木材生産と加工・流通を中心に教育・研究の目的としてきたが、人々の暮らしの活性化とそれに伴う森林文化の醸成が循環型社会を構築し、持続的な地域づくり、特に、持続的な森林管理や林業経営を可能にするという視点を充実させる。学生には自らの価値観と総合的思考方法を“森林”から学び取らせるために、実学主義に対応した教育研究環境を提供し、さらに演習林実習も充実させる。

これら学科の特色ある取組を受験生等に周知し、アドミッション・ポリシーに基づき求める学生の確保につなげる。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

受験生の増加に向けた学科広報のあり方を検討し、パンフレットの見直しや学科ガイダンスブックの刊行などPR活動の充実を図る。

3. 達成度を判断するための指標

- ① 指定校制度を充実させ、森林系の指定校を増やす。
- ② 高校への出前講義を増やし、学科のPRを行う。
- ③ 全国高等学校森林・林業教育研究協議会に参加し、大学・学部・学科のPRを行う。
- ④ パンフレットの見直しを行う。

4. 成果・評価

■成果

- ・一般入試受験や出前講義の実績や高校訪問での情報などをもとに、指定校の見直しを行った。
- ・高校への出前講義：10校
- ・大学訪問時に講義：2校
- ・全国高等学校森林・林業教育研究協議会は開催中止。
- ・学外での学科PR：夢ナビライブ2016（主催：フロムページ、2016.7.9、東京ビッグサイト）、ハイウェイ・テクノフェア（主催：高速道路調査会、2016.11.1～2、東京ビッグサイト）
- ・一般市民への講義：東京農業大学カレッジ講座（東京都）、世田谷区区民講座（東京都）、青梅市の森公開講座（東京都）、かわさき市民アカデミー講座（神奈川県）、八女市山村塾（福岡県）、ながさき県民の森県民講座（長崎県）、ほか
- ・学科リーフレットに加え、「研究室／教員紹介および出張講義のごあんない」を作成。また、学科教員が主著者となり「図解 知識ゼロからの林業入門」（関岡東生監修、家の光協会、2016.11）を出版。さらに、大学用にリーフレット「アカデミアセンターに使用されている木材の魅力」（東京農大出版会）を発行。

■評価（5～1で記載してください）

5. 課題及び改善事項
・大学の学科 HP などの充実を図ることに加え、学外での PR 活動の場を広げるための情報収集を行い、実施する。
6. 平成 29 年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 28 年度活動報告書 (2/3)

学部・委員会名	地域環境科学部
学部長・委員長等氏名	学部長 矢口行雄
担当所管	森林総合科学科
テーマ	同窓会との交流・連携

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
平成 28 年 5 月 22 日に行われる記念式典に向けて、同窓会と連携を密にし、その成果が森林総合科学科と同窓会の交流の充実になるようにする。
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
① 同窓会名簿の刷新。 ② 記念誌の発行。 ③ DVD 制作。 ④ 記念式典の実施。
3. 達成度を判断するための指標
①から④まで、成果物を持って達成度を評価することとする。
4. 成果・評価
■成果 ・同窓会名簿（卒業生名簿）の整備を行った。 ・学科創設 70 周年記念図書「現代における民有林経営の課題と展開方向」（東京農大出版会、2015.3）を出版（予算年度の関係で前年度末出版）。 ・学科創設 70 周年記念誌・DVD（2017.3.31）を出版。 ・学科創設 70 周年記念式典を 2016 年 5 月 22（日）に挙行。 ・「食と農」の博物館において、特別展「日本の森林一人と森林との関わりー」（2016.3.30～5.25）を開催。 ・「山林」（2017 年 2 月号、大日本山林会発行）に「人間と森林の共生を目指してー東京農業大学森林総合科学科創設 70 周年を迎えてー」を掲載。 ■評価（5～1 で記載してください） 4
5. 課題及び改善事項
引き続き、1 万人に達しようとしている同窓会会員の名簿整備。および、卒業生と学生との連携の強化。
6. 平成 29 年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成28年度活動報告書(3/3)

学部・委員会名	地域環境科学部
学部長・委員長等氏名	学部長 矢口行雄
担当所管	森林総合科学科
テーマ	ディプロマ・ポリシーを実現するための取り組み

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

森林の利用を人と自然の共生系として捉え、これまでの森林・林業・林産業のあり方に加えて、森林の生物多様性の保全と持続的利用のバランスを考えた地域づくりに対応できる専門家教育の充実を図る。すなわち、森林資源の持続的な生産や資源利用としての木材生産と加工・流通を中心に教育・研究の目的としてきたが、人々の暮らしの活性化とそれに伴う森林文化の醸成が循環型社会を構築し、持続的な地域づくり、特に、持続的な森林管理や林業経営を可能にするという視点を充実させる。学生には自らの価値観と総合的思考方法を“森林”から学び取らせるために、実学主義に対応した教育研究環境を提供し、さらに演習林実習も充実させる。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

分かりやすく表現できる記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力のスキルアップを行う。

3. 達成度を判断するための指標

- ① 各研究室で英論文を含む論文紹介を行う。
- ② 卒業論文に取り組むための所信表明や中間発表を各研究室で行う。

4. 成果・評価

■成果

- ・学科将来構想委員会のカリキュラム検討および実習のあり方検討プロジェクトにおいて、学内の実験実習、演習林実習の内容を見直し、次年度実施に移せるよう準備した。また、1～3年生の一部の専門講義科目では、グループディスカッションなどを取り入れ、学生参加型の授業を試みた。
- ・3年生に対しては、ほとんどの研究室で所属学生を対象に、前期には卒業論文に向けた所信表明会を開催して、4年生の卒業論文ゼミ、大学院生の所信表明・中間発表会に、後期には卒業論文の中間発表会、卒業論文および修士論文の本発表会に参加させた。また、各研究室で行う専攻実験実習では、学外での実習や研修の機会を増やすよう努めた。
- ・4年生に対しては、卒業論文研究を通して、知識の活用能力、批判的・論理的思考能力、課題探求能力、問題解決能力、表現能力などをより身に付けることができるよう改善を行った。
- ・専攻実験実習や卒業論文作成の中で、文献の検索方法の習得や外国語文献の積極的活用を促した。一部の研究室では専攻実験実習で英語論文を紹介した。

■評価（5～1で記載してください）

4

5. 課題及び改善事項

- ・英語論文の紹介や卒業論文での活用（引用）は、まだ一部の研究室にとどまっているので、周知・浸透させていく必要がある。
- ・学外での活動を学科（実験実習、演習林実習など）として、また研究室（専攻実験実習、卒業論文）としても広げていきたいが、現状では授業期間中の外出は難しく、夏休みも以前よ

り短くなっている中でのスケジュール調整は極めて困難な状況である。

6. 平成 29 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 28 年度活動報告書 (1/1)

学部・委員会名 地域環境科学部・生産環境工学科

学部長・委員長等氏名 矢口 行雄

担当所管 生産環境工学科

テーマ 工学系志望高校生に対する生産環境工学科の認知度の改善及び
指定校推薦による学生確保のあり方についての再検討

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

生産環境工学科は技術者教育を前面に押し出している学科であるが、高校生には農学系の一学部と認識されている。このため、工学系を志望する高校生にはあまり認知されていない。したがって工学系志望高校生に、農学を基礎とした工学教育を行っている学科であることを認識させることは、今後の受験生確保の観点からは重要である。したがって平成 28 年度は、高校訪問や高校に対する学科広報を強化することを目標とする。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

4 月、広報活動の手法、具体的なスケジュール案策定

5 月、広報資料作成

6 月以降、高校訪問の実施

指定校推薦について見直しを行い、特に地方出身の優秀な学生の確保に取り組む。

3. 達成度を判断するための指標

実施した広報活動の回数。高校訪問数。作成した広報活動資料数および配布数。

4. 成果・評価

■成果

1) イベント参加

- ・ミライガク 2016（6/17、於：東京ビッグサイト）への出展

テーマ「世界農業遺産 茶草場・棚田の魅力」来場者数約 300 人。資料配布部数 300 部。

- ・夢ナビ 2016（7/9、於：東京ビックサイト）での模擬講義実施

テーマ「農村から日本を元気にしよう！農業土木と農村の多面的機能」来場者数約 120 人。資料配布部数 120 部。

- ・小学生対象イベント（11/13、27、於：食と農の博物館）

テーマ「お米に関するワークショップ」参加人数 29 人。

2) 高校訪問

- ・進学説明会（10/24 実施）参加者数 24 人。

- ・模擬講義（3/7・8 実施）テーマ「見えない光で地球をみる」

3) 見学者受け入れ

- ・12/8 実施：参加者 23 人。

- ・2/17 実施：参加者 25 人。

4) 指定校推薦入試の指定校の見直し

これまでの実績等から指定校推薦入試の指定校を見直した。その結果、本学科がアドミッション・ポリシーにより求める学生の確保につながった。

■評価（5～1 で記載してください）

- 4 （方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。）

5. 課題及び改善事項

1) 配布物について

リーフレットを見直し、HP 動画サイトへのリンクをメインとした画像中心の内容としたい。
現在入試センター、外部業者と協議し、フォーマットの改定を計画中である。

2) 高校訪問について

高校訪問については、訪問しても農学系の希望者しか集まらず、工学をアピールする場として聴講者の確保が難しいと感じている。今後は高校生が多数集まるイベントへの参加を重視し、オープンキャンパスなどの参加者、見学者を増やす方向を検討したい。

3) 指定校推薦入試について

平成 28 年度、指定校推薦の指定校の見直しを行った。本学科がアドミッション・ポリシーにより求める人材の確保につながった。本学科では地方公務員の OB からの求人が年々増加していることから、指定校を地方の実績のある高校に絞り込んでいく方針とした。今後も引き続き指定校の見直しを行いアドミッション・ポリシーに基づいた地方出身の受験生を確保したい。

6. 平成 29 年度への継続の有無

有

※「平成 29 年度活動計画書」に記入予定。

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 2 8 年度活動報告書 (1/5)

学部・委員会名	地域環境科学部
学部長・委員長等氏名	矢口 行雄
担当所管	造園科学科
テーマ	100 周年に向けた 10 年間の第一歩

(1) ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラムプログラムの実施と改善

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
グローバル時代の多面的な地域環境問題の解決に果敢に挑み、自然と共生する地域づくりに貢献できる実践力を養う教育研究の場とすることを目標として、以下の目標を掲げる。 (1)ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラムプログラム連動とその実施と改善
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
(1)カリキュラム・ポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。 また、JABEE 認定校としての要件を常に確認し、自己点検を含めた、技術者教育の確認を継続する。また、第三者の審査による教育体制の点検を行う。
3. 達成度を判断するための指標
・授業シラバスの 15 回の定期的点検と教員相互の点検を実施する。 - また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、点検、評価、を実施する。
4. 成果・評価
■成果 ・日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を常に実施し、授業シラバスを教員相互で点検するとともに、年度内に 2 回、学生による授業評価と満足度評価を実施した。 ■評価（5～1 で記載してください） 3 方針に基づいた活動ができた
5. 課題及び改善事項
平成 29 年度新カリ科目「専攻研究」（3 年後期必修）についての具体的学修内容について教員相互で議論、検討を継続する。
6. 平成 29 年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成28年度活動報告書(2/5)

学部・委員会名	地域環境科学部
学部長・委員長等氏名	矢口 行雄
担当所管	造園科学科
テーマ	100周年に向けた10年間の第一歩

(2) 海外研究機関や組織等との学術交流によるグローバル教育の推進

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
グローバル時代の多面的な地域環境問題の解決に果敢に挑み、自然と共生する地域づくりに貢献できる実践力を養う教育研究の場とすることを目標として、以下の目標を掲げる。 (2) 海外研究機関や組織等との学術交流によるグローバル教育の推進 学部や学科の組織と海外の大学あるいは研究組織との学術連携により、交流を図る。
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
(2) 海外の研究者、技術者による特別講義開催、学術交流校等との共同プロジェクト研究等の実施によりグローバル社会への適応能力向上を図る。
3. 達成度を判断するための指標
・学術交流にかかわる特別講義、特別授業、あるいは共同研究プロジェクト等の実施回数あるいは教員や学生の参加者数などによって評価する。また、それらの継続的交流のためのプログラムを作成する。
4. 成果・評価
■成果 台湾東海大学景観学科学生の実入（7・8月） 南京林業大学風景園林学院との交流（7月） ミシガン州立大学ムラリ教授特別講義（10月） 北京林業大学林教授特別講義（11月） ■評価（5～1で記載してください） 3 方針に基づいた活動ができた
5. 課題及び改善事項
特別講義や授業での交流はなされたが、共同研究プロジェクトは十分にはできなかった。
6. 平成29年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 2 8 年度活動報告書 (3/5)

学部・委員会名	地域環境科学部
学部長・委員長等氏名	矢口 行雄
担当所管	造園科学科
テーマ	100 周年に向けた 10 年間の第一歩 (3)産・官・学の連携による実学教育の推進

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
グローバル時代の多面的な地域環境問題の解決に果敢に挑み、自然と共生する地域づくりに貢献できる実践力を養う教育研究の場とすることを目標として、以下の目標を掲げる。 (3)産・官・学の連携による実学教育の推進
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
(3)産・官・学との連携により、実践的な演習・実習授業およびフィールドワークを通しての実務能力の向上を図る。
3. 達成度を判断するための指標
・演習等における設定課題テーマの内容、課題成果の発表・講評、ならびに評価を実施する。これには業界で実践する技術や内容について非常勤講師や客員教授による授業、演習、実習などの実施が重要である。 ・学科独自の教育プログラムである「京都庭園研修」などは、実務的な特別プログラムとして位置づけができ、参加者数や内容の確認と継続によって評価する。 ・地域連携による活動プロジェクト等の実態と内容を評価する。
4. 成果・評価
■成果 非常勤講師や客員教授を演習等の成果発表会（7 月）に招き、実学教育の点検の機会を設けた。「京都庭園研修」（9 月、2 月）、「三陸復興ランドスケープデザインツアー」（3 月）等を実施した。
■評価（5～1 で記載してください） 3 方針に基づいた活動ができた
5. 課題及び改善事項
産・官・学の連携による実学教育をさらに推進する。
6. 平成 29 年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 2 8 年度活動報告書 (4/5)

学部・委員会名 地域環境科学部
 学部長・委員長等氏名 学部長 矢口 行雄
 担当所管 造園科学科
 テーマ 100 周年に向けた 10 年間の第一歩

(4) 地域連携による実践的な教育研究と社会貢献の推進

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

グローバル時代の多面的な地域環境問題の解決に果敢に挑み、自然と共生する地域づくりに貢献できる実践力を養う教育研究の場とすることを目標として、以下の目標を掲げる。

(4) 地域連携による実践的な教育研究と社会貢献の推進

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

(4) 地域との連携により、実践的な研究プロジェクト等の実施による実務能力およびコミュニケーション能力の向上とともに、社会的意義の高揚を図る。

3. 達成度を判断するための指標

・演習等における設定課題テーマの内容、課題成果の発表・講評、ならびに評価を実施する。これには業界で実践する技術や内容について非常勤講師や客員教授による授業、演習、実習などの実施が重要である。

・学科独自の教育プログラムである「京都庭園研修」などは、実務的な特別プログラムとして位置づけができ、参加者数や内容の確認と継続によって評価する。

・地域連携による活動プロジェクト等の実態と内容を評価する。

4. 成果・評価

■成果

これまで継続的におこなってきた石川県輪島市との地域住民と学生が一緒に企画・運営する連繫活動を実施。

2016 造園科学科地方緑友会（広島）を実施（11 月）

造園科学科後継者プログラムにより、新大塚公園の建設現場見学会を実施（12 月）

■評価（5～1 で記載してください）

3 方針に基づいた活動ができた

5. 課題及び改善事項

地域連携による実践的な教育研究と社会貢献の推進をさらに継続する。

6. 平成 29 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成28年度活動報告書 (5/5)

学部・委員会名 地域環境科学部
 学部長・委員長等氏名 学部長 矢口行雄
 担当所管 造園科学科
 テーマ 100周年に向けた10年間の第一歩

(5) 学科創立100周年に向けた教育研究の再構築とその後のあり方検討

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
グローバル時代の多面的な地域環境問題の解決に果敢に挑み、自然と共生する地域づくりに貢献できる実践力を養う教育研究の場とすることを目標として、以下の目標を掲げる。 (5) 学科創立100周年に向けた教育研究の再構築とその後のあり方検討
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
(5) 10年後の学科創立100周年に向けて、造園学教育の再構築に対する課題を整理する。
3. 達成度を判断するための指標
・ 演習等における設定課題テーマの内容、課題成果の発表・講評、ならびに評価を実施する。これには業界で実践する技術や内容について非常勤講師や客員教授による授業、演習、実習などの実施が重要である。 ・ 学科独自の教育プログラムである「京都庭園研修」などは、実務的な特別プログラムとして位置づけができ、参加者数や内容の確認と継続によって評価する。 ・ 地域連携による活動プロジェクト等の実態と内容を評価する。
4. 成果・評価
■ 成果 なし ■ 評価（5～1で記載してください） 1 方針に基づいた活動ができず、目標に対する達成度が不十分
5. 課題及び改善事項
学科創立100周年に向けて、造園学教育の再構築に対する課題の整理を継続する。
6. 平成29年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。